

## 歯科医師臨床研修制度に対する課題等

### (臨床研修施設の立場から)

#### I. 基本的枠組みについて

##### 1. 基本理念について

基本理念には、「医療者（医療人）として、患者の健康度、医学的管理状況、日常生活動作（ADL）、社会的背景などについて配慮できる歯科医師を目指す」ことが含まれていることを再認識すべきである。

今後、在宅医療や病・医院等の訪問診療などの機会が増加していくことが予想されるため、歯科的処置の前に考えねばならないことが多くある。

##### 2. 国民への周知について

医科においては、国民（患者）は研修医が患者を診療、治療することにテレビなどの媒体を通して周知されているが、歯科においては研修歯科医の認知度は低い。また、研修歯科医が診療を行うことを周知した場合、大学よりも指定施設での抵抗が強いことが予想される。

生体に侵襲が加わる診療については、基本的には、まず大学で行うべきである。大学では、模型やシミュレーター等の実習が中心であり、大学外で患者を診ることが多いのではないかと考えられる。

##### 3. 指導歯科医について

指導歯科医講習会は繰り返しの受講を勧めてはどうか。

#### II. 到達目標等に関して

##### 1. 多職種連携について

よく歯科のことは判らない、また歯科も医科のことが判らないと言われているが、少なくとも以下のような共通する事項（言葉）について理解を深めておけばコミュニケーションは取れるのではないかと考えられる(共通語教育)。

個人情報保護

医療安全

診療情報

院内感染対策

モニタリング・バイタルサイン

薬剤管理

医療機器管理

日常生活動作（ADL）等

## 2. 参加型臨床実習の推進について

コミュニケーションスキルにたけた、痛くない治療の出来る研修歯科医であれば、研修可能な範囲が広がる。

卒前教育において、特に、麻酔及び全身管理について一定レベルの教育を受けていることが望ましい。一定レベルとは医療安全の考えに従い、モニタリング、全身状態の変化の把握を行い、完全に無痛に行うことである。

また、大学での参加型臨床実習を充実させるためには、職員の「教育」における貢献度を、より評価して頂く必要があると考える。

## 3. 模型、シミュレーター等による実習の充実について

模型やシミュレーターによる実習に加え、豚の顎骨を使った実習を加えてはどうか。豚の顎骨は入手が容易で安価である。また模型よりも効果的な実習が可能である。口腔外科、歯周病、インプラント限らず、工夫すれば充填、歯内療法なども実習できる。伊東歯科口腔病院の臨床研修では年一回、当該研修を実施している。

## III. 臨床研修の実施状況について

### 1. 臨床研修の充実

数人の研修歯科医で1人の患者を診る研修方法をとっている臨床研修施設がある。こういった研修環境において、基本的理念にあるような「一般的な診療に於いて頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応出来るよう、基本的な診療能力」を身につけることが出来るのだろうか。診断、治療計画等については研修可能かもしれないが、処置等は、1人の研修歯科医が一連の行為として研修することが必要である。

臨床研修施設は、患者数等も勘案し研修歯科医を受け入れるべきだと考える。また、適切な研修を実施するための経費として、歯科医師臨床研修の補助金を有効に活用すべきである。

患者は自分の思い等をどの研修医に報告していいか判らず、コミュニケーションがとれないまま、診療が終わることになりかねない。

また、研修歯科医は患者等からの感謝の言葉、お叱りの言葉等を受けて達成感を噛みしめて成長していくのではないか。

### 2. 総合的な診療能力の習得

研修歯科医は、歯科保健指導、説明、医療安全、感染対策などノンテクニカスキルよりも、充填、形成、抜歯、抜髄等（非可逆的な処置）について興味関心を抱く傾向にある。

歯科医師臨床研修においては、疾病を治療するのみでなく、全人的医療を理解したうえで、患者の疾病を診ることが期待される。